

1. 滑空機の改良および整備  
特に活動は無かった。
2. 指導者の養成（指定養成施設委員会担当）

## A. 指定養成施設人事異動

施設管理者 新任：鈴木康一 退任：高田豊信（5/29,06'） 監査人 新任：高田豊信

## B. 指定航空従業者養成施設での自家用操縦士の養成 本年度は下記10名を養成。

期	訓練所	修了日	修了者	
第1期	山梨	7/11	1	岡崎翼 一名入所後中断
第2期	関宿	7/15	2	丹羽康夫、山口仁史、
第3期	山梨	11/20	4	身延高志、石川真人、清野翔平、杉浦宅也
第4期	静岡	2/5, 07'	1	梶智就
第5期	長野	3/18, 07'	2	春原農、新藤寛也

## C. 航空安全講習会（技量維持連絡会担当）

国土交通省航空局通達による“自家用操縦士の技量維持に係わるガイドライン”に基づく講習会の開催。（社）日本航空機操縦士協会が（財）空港環境整備協会の助成金を受け、（社）日本滑空協会、NPO 法人日本オーナーパイロット協会、（社）日本飛行連盟、全国自家用ヘリ協議会とともに毎月連絡会議を開催し、推進、実行している。

会合名	日時	開催場所	参加者
<b>認定講師研修会</b>			
	4/8	東京新橋航空会館	50
	5/20	大阪	
	5/27	熊本	
	6/17	東京	
	6/24	仙台	
	7/15	大阪	
<b>安全講習会</b>			
第1回	7/1	東京新橋航空会館	29
第2回	9/2	名古屋	42
第3回	11/18	札幌	2
第4回	12/17	長野 須坂	45
第5回	1/20	山梨	43
第6回	2/4	大阪(JAPAと共催)	
第7回	2/24	東京新橋航空会館	49

## 3. 滑空選手権の開催、後援、ならびに国際大会への選手派遣

## A 第44回全日本高等学校滑空選手権大会 11/3-5,06 ' 韮崎滑空場（山梨）

（後援名義提供、第一部および二部優勝・準優勝・3位者に日本滑空協会会長賞授与）

日本航空高等学校グライダー部、日本航空第2高校モーターグライダー部、  
出場選手総数 25名

第1部：1位 岡崎翼（日本航空高3年）、2位 石川真人（日本航空高3年）  
3位 若松佑太（日本航空高3年）

第2部：1位 後藤寛明（日本航空二高2年） 2位 山口雄太郎（日本航空高2年）  
3位 大迫勇祐（日本航空二高3年）

## B 第10回原田覚一郎杯大学対抗グライダー競技大会 8/10-18,06 ' 於妻沼滑空場

（後援名義提供、団体優勝・準優勝・三位者への賞状授与、最優秀選手・優秀選手から個人第6位までに賞状授与）

日本大学理工学部グライダー部、東海大学湘南校舎体育会航空部、関東学院大学体育部連合会航空部、  
青山学院大学体育会航空部、学習院大学航空部 参加。

- 団体：原田覚一郎杯 日大 B、準優勝 日大 A、3 位 関東学院大学、敢闘賞 青山学院大学  
 個人：最優秀選手 武井賢一郎（日大）、優秀選手 小磯健太郎（東海大）、3 位 稲田賢（日大）
- C 第 9 回東京六大学対抗グライダー競技会 妻沼 8/20-27,06 ‘  
 （後援名義提供、優勝者団体への盾授与）  
 慶応義塾体育会航空部、東京大学運動会航空部、法政大学体育会航空部、  
 明治大学体育会航空部、立教大学体育会航空部、早稲田大学航空部 参加。  
 団体：優勝 慶応義塾大学、準優勝 早稲田大学、3 位 法政大学  
 個人：優勝 家村耕一（慶應）、準優勝 大堀宏海（慶應）、3 位 長町隆介（慶應）
- D 第 9 回全日本学生グライダー新人競技大会 9/30-10/6,06 ‘於木曾川滑空場  
 （後援名義提供、個人団体 3 位までに賞状授与）  
 団体：優勝 慶応義塾大学、準優勝 早稲田大学、第 3 位 大阪大学  
 個人：井村隆宏（慶應）、中村友生（早稲田）、星野佑介（慶應）
- E 第 45 回全日本学生グライダー競技選手権大会 3/3-11,07 ‘於妻沼滑空場  
 個人：優勝 片岡優司（立命）、準優勝 西山圭太（日大）、3 位 増子慎一郎（慶大）  
 団体：優勝 名大ディスクス、準優勝 慶應ディスクス、第 3 位 慶應 YS
- F 第 44 回全国七大学総合体育大会グライダー競技の部 (3/13-19,07’ 於関宿滑空場)  
 団体：優勝 京都大学、準優勝 東北大学、第 3 位 名古屋大学、  
 個人：優勝 藤原直樹（京都大学）、準優勝 佐々木一正（東北大学）、第 3 位 中村友洋（名古屋大学）
- G エアロバティックジャパン in 角田 2005 年 10/7-8,06’ 於宮城県角田滑空場
- H 国際競技会結果 当協会が出場を承認した競技会について  
 a WGC2006（スウェーデン Ekeby 6/3-18）  
 18m Class 12 位 市川展（Ventus 2cx 18m）

#### 4. 航空スポーツ安全確保、普及活動

- A アクシデント
- ① 板倉滑空場でのスーパーデモナ着陸時事故 3/12,06’
  - ② 板倉滑空場での LS3a 着陸時事故 5/3,06’
  - ③ 但馬空港でのシマンゴ離陸時事故 死亡 2 名 5/3,06’
  - ④ 長野での SZD-51 駐車場への不時着時事故 6/24,06’
- B 安全に関する活動
- a 7/15-16 関宿滑空場において、夏季安全飛行大会実施 17 名の教官レベル受講生に対して失速、スピンの初動回避、サブ G、その他異常事態からの回復実技および座学を実施。
  - b 航空安全講習会：上記 2.C に記載
- C 航空スポーツ普及活動
- a 機関紙 JSA Information の発行（JSA Information 編集委員会）  
 B5 版から A4 版にサイズを変更、No.273～279 を刊行した。（毎奇数月初、会員に 700 部配布）
  - b オフィシャル HP の運営（HP 委員会）  
 本年度より新 HP 立ち上げを行い、毎週アップデートしている。
  - c 8/05-06,06 ‘に但馬滑空場で行われた「スカイ・レジャー・ジャパン 06 ‘イン但馬」に参加。  
 二日間の SLJ 参加者は 5.7 万人、当協会は関西エアロスポートクラブに委託、下記を実施。  
 \*モーターグライダー（JA21KA によるグライダー（JA26EZ）曳航離陸デモ  
 \*JA26EZ の分解組立デモ（朝夕）
  - d 第 12 回スカイスポーツシンポジウム（社）日本航空宇宙学会主催 への参加  
 12/2-3,06’ 於日本大学理工学部（担当：鐘尾みや子氏）  
 森中玲子氏による特別講演  
 “アンデス山脈の山岳波（ウエーブ）を利用したグライダーによる長距離飛行”
  - e グライダー体験教室（担当 大平雅大氏 甲賀大樹氏）  
 “風と遊ぼう熊谷めぬまフェスタ 2007 “に同期して、リトアニア製プライマリーグライダーの体験飛行会を埼玉県妻沼滑空場第 2 滑走路で実施。最年少 4 歳から最年長 79 歳までのかたに地上滑走を体験していただいた。発航回数 50 回。子どもゆめ基金助成金事業として、当協会主催、熊谷市お

よび（財）日本学生航空連盟後援。

5. FAI および（財）日本航空協会滑空機関連業務
  - A. 記録樹立  
日本記録（オープンクラス一般）梅谷堅三 自由三角コース距離 650.6km 於ナミビア 12/13,06'
  - B. 表彰  
FAI エア・スポーツ・メダル 吉田正克  
（財）日本航空協会航空亀齡賞 かぞえ年 90 歳に達した航空の発展に寄与した人  
堀川勲、木村貫一、日向美智子  
（財）日本航空協会日本記録樹立費好成績証明書授与  
（オープンクラス一般）市川展 目的地直線距離 641.1km 於オーストラリア 12/30,05'
  - C. IGC 委員は当協会会長牧野健氏に委嘱、  
CIMP 委員は引続き嶋田和人氏に委嘱、会議出席。
  - D. IGC 委員会 3/2-3,07' ローザンヌ ドイツ在住梅谷堅三氏が代理出席予定。
  - E. FAI 国際医事委員会 6/17-18,06' ローザンヌ 嶋田氏（副委員長）出席。
  - F. 国内滑空記章申請、受付ならびに交付業務
    - a 平成 18 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの各章交付数は次のとおり  
A 章 32 件、B 章 30 件、C 章 27 件、銅章 15 件
    - b 本年度より滑空記章証明書をカードに変更。
    - C 国内滑空記章の認定には滑空記章試験員のご協力をいただきました。
6. 滑空機検査業務に関する調査および支援（耐空検査事務局準備室）  
航空機としての滑空機の耐空性を検査する業務を行う滑空機検査事務局は平成 17 年 3 月 31 日に（財）日本航空協会から国土交通省航空局に返還されたが、それを（社）日本滑空協会内に受け入れる活動を行ったが、まだ実現されておらず、進展は無い。
7. 各種公認事業  
3 項の各種競技会後援、“カレンダー” 出版の公認
8. 専門部会メンバーおよび活動
  - A. JSA 事務：吉田正克、甲賀大樹、大平雅大、岩崎美佳、加藤ひろみ
  - B. JSA information 編集委員会：吉岡名保恵、藤元清司、久田雅樹、染中俊雅、坂井正一郎（4.C.a 参照）
  - C. HP 委員会：渡辺翼、五十嵐健大、坂井正一郎（4.C.b 参照）  
11/18 編集委員会開催
  - D. 指定航空従事者養成施設運営委員会：鈴木康一、玉中宏明、奥平光保、本多正明、井手尾 雅彦、高田豊信、戸田 佐、秋山崇道、折原正規、坂井正一郎、藤森儀治、坂本興司郎、相原浩人、吉田茂、岡井紀道（2.B 参照）
  - E. 技量維持連絡会：坂井正一郎、鈴木重輝（2.C 参照）
  - F. 国際委員会：牧野健、嶋田和人（5.A,B,C 参照）
  - G. 曲技飛行委員会：加藤隆士、植田展生、鐘尾みや子、櫻井玲子（4.B.a 参照）  
資料作成を含め、異常姿勢からの回復トレーニング手法確立。
  - H. 耐空検査事務局準備室：中澤愛一郎（6. 参照）
9. 平成 17 年度の各種助成金
  - A. スポーツ振興基金（事業中止）
  - B. 子どもゆめ基金助成金（4 Ce 参照）
10. 平成 17 年度に実施した事務局主催の会議は下記  
定例総会 平成 18 年 5 月 27 日、平成 18 年 3 月 10 日  
定例理事会 平成 18 年 5 月 27 日、平成 18 年 3 月 10 日、  
常務理事会 5/2、8/10、10/17、12/20、1/15、3/9